

「憎まれっこ世に憚るには！」

第1回★朗読シンポジウムレポート

自分の身体で生きていく。

COCOROOMがあるここ新世界アーツパークには、現代音楽やコンテンポラリーダンス、映像のアーカイヴから、インディーズショップ、図書室喫茶まで、実に多様な団体が居を構えている。

COCOROOMの仕事をちょこっとさぼって、界隈をぶらぶら歩くと、いろんなことを感じている自分に気づく。バラバラな断片たちが、どこかに向かって走り出している。とるにたらないことを丁寧に拾い上げてゆく、日々の営みの中、ふと見上げた空は、その人その人の戦場の空の色をしているのかもしれない。生きてきたディケード。生きてゆくディケード。自分の足で歩いていくしかないから、人生はおもしろい。

DECADE

DANCE BOX 大谷煥 これまでやってきたことが、ひろがってきた10年

COCOROOM 上田假奈代 七転八倒の10年 いま芽がふきだしてきたところ



ココルームカフェTIMES

ごゆっくり おくつろぎ ください

まかないTIME 昼 12:30 ~ 14:30
夜 19:00 ~ 22:00

NEWS インターネットはココで、つないで!
cocoroom cafeが
YAHOO!BBモバイルゾーンになりました

hour 12:00 ~ 23:00 <不定休>

絵日記

夕暮れの電車が空に帰ってゆく
夏の終わりの真昼の暑さは 線路のわきの葉裏の陰で
ちいさくまるまわっている
筒のように巻かれて
地上の夜を 吐き出している (電車)

今年の夏も よく働いたね わたしたち
今年の夏は 何を残せたんやろうね わたしたち
この星では 詩人の仕事など
毎朝配られる新聞の厚みほどにも 重要ではなく
仕くしている詩人は 詩人の勝手に
どこにも 誰にも 言っていく先はないことも 知ってる

今日も 大阪の西成方面の空をみた
エキゾチックな人工のヤシの木のむこうの
西成の空に、飛行船など浮かんでいるのだ
出勤すると 仕事場の4Fの踊り場のそばにある
味もそっけもないベンチで 男が くれたびれた
ポストンバックのように うなだれて 座っている
ひがないちに 座っているその男を わたしは
この春から ほとんど毎日のように みていたのだが
真夏のあいだ 彼の姿はなかった

今日 てりかえす階のなかで
ひさしぶりに その男をみつつけて
声にだすわけでもなく
どうしてたんやろうか と思う

わたしの仕事場では
8月25日から「大人と大人じゃない人の絵日記展」をやつて
やつてくる親子連れや カップルにクレパスを渡している
浮浪者風の男二人連れが
「もう なんもかんも 忘れた」と言いながら
紙の上半分は男の顔の絵をかいた
その顔は 二人のどちらにも似ていず
「この人 誰なん？」と尋ねても
「忘れた」としか答えない

たよりない水色でかかれた 誰にも似ていない男の顔は
いまにも 空に落ちてしまおうだ

今日も夕暮れの電車が 空にかえつていく
西成の空をみつめつづける男の あの
ポストンバックをなかに
夏の思い出がはいっているのか どうなのか
毎朝配られる新聞の厚みほどにも 届かない思い出
声もださず 足音もさせないで
夏の空のむこうへ ゆっくりと 帰ってゆく

上田假奈代・生誕三十四周年記念祭

トイレ連れ込み朗読プロジェクト「あ」

～あなたとあたしの耳が近づく～

日時：2003年12月1日(月)

場所：ご指定地

料金：二万円

※遠方場合は別途にて交通費を申し受けます

内容：上田假奈代による詩の朗読(本編約二十分)

定員：限定5名まで

※時間等は調整させていただきます

お申込方法：メールもしくは電話にて

info@kanayo-net.com tel&fax06-6636-1662

主催：APM上田假奈代事務所

大阪市浪速区恵美須東3-4-36

フェスティバル館409 cocoroom内

tel&fax06-6636-1662 tel6636-1612

http://www.kanayo-net.com



自分の身体で生きていく。

DANCE BOX代表・大谷嬢さんとCOCOROOM代表・上田假奈代、視覚障害施設の職員である井野知子さん、音大でピアノを専攻し、詩の学校の1期生まりりごさんを交えて、2時間に及ぶ朗読シンポジウムの模様をまとめてお届けします。
(2003年9月14日開催)

飯島(以下I)今日はお集りいただいたみなさんと「憎まれっ世に憚るには！」と題して、それぞれの道の開拓者である大谷さんと上田さんに語っていただくと思っています。

■ 自分で場所をつくってゆく

上田(以下U) 大谷さんは、プロデューサーである前に、ダンサーでいらっしゃるんですよ。

大谷(以下O) 土方巽系列の舞踏を踊っていました。日本で最後に踊ったのは西部講堂、79年になります。当時は舞踏集団はたくさん人間をかかえるカンパニーが多く、舞踏演習共同生活をしていましたね。僕は、東北から北海道の小樽へ渡り、北へ向かう嵐のような20代を過ごしました。その後、1年くらいヨーロッパからアフリカに逃亡。日本に戻ると、須磨の山奥でぼそぼそ、ハンコクラブで生計をたて、なにもかも離れて、しあわせな家庭人として暮らしました。そうしているうちに、91年にトリイホールのプロデューサーに、落語をベースにしていたホールなんですけど、オーナーが舞踏やってみないか、ともちかけてきて、かつての盟友である栗太郎の公演を1回めにやりました。そして、95年に舞踏を自分なりに再考したいと思いました。

U 奇遇ですね。わたしが京大の西部講堂で裏方で関わるようになったのは、87年の土方巽の追悼イベントでした。各地からいろんな方がいらして、その熱気に吃驚。それが縁で西部講堂の裏方になりました。

O 80年代に舞踏は海外に出ていて、世界では日本を代表するパフォーマンスアートだと認められていくんですが、日本では非常に空洞化するんですね。それまでカンパニーを経営的に支えていたキャバレーが80年代後半にすたれ、山海塾を筆頭にみんな海外に行って、コンテンポラリーダンスも生まれはじめるんですが、日本では思惑していました。あたらしいものが出てこない、もしくはあったとしても、やる場所がなかったんですね。

U やる場所がない、というのは同感です。詩の朗読なんてもののであえなかったから、92年に自分で主催イベントをしました。その当時も、同人誌というのはあったけど、朗読する詩人たちに、わたしはあえなかったですね。

■ 観客とアーティストを育てる

O 舞踏には2つの要素があります。ひとつは普遍性、日本人の身体性にもとづいている。もうひとつは、前衛性。時代をきりひらいていく。この性質を舞踏は生まれたときからもっていたんですね。土方さんは今しかない、という切迫感をもっていった人でしたが僕は全く逆の、大阪人。なんかあっても明日があるやんだから、自分のやり方をしているこうと考えるようになりました。舞踏をばつばつやりだして、「大阪DanceExperience」を行ったら、観客は200人。僕が最後に踊った79年には2000人の観客が集まったのに、どうしようもない時代の変化を感じました。いま、観客をつくっていかなあかん、どうやったらお客さんがきてくれるんやろうか、考えました。

U その頃、わたしも同じことを言っています。自分のネットワーク上にあるお客さましか来てもらえないのですもの。詩の朗読の聞き方がわからへん、とお客さんの声も。その時、25畳ワンルームマンションに引越したので、「下心プロジェクト」と名乗り、月に一回以上の催しやワークショップをしていきました。京都は大阪とちがって、ジャンルを越えて人がつながりやすいので、それはうまくはまったんです。いろんなジャンルの人が集まりますが、今度は詩人が追いつかない。量的にも、質的にも。2年目は、ワークショップの方針をしっかりと詩をつくらう、朗読しようという方向に、3年目はマネジメントできる人を育てようと思いました。

O 僕も、観客とアーティストを育てる仕組みを考えました。「Dance Circus」から「Selection」それから「Independent」に至るステップアップシステムをつくりました。アーティストも観客も交流しながら、成長していくことが大切ですね。

U コールームでもPPPPCBNというブックングものをやっているんですが、まさに観客や出演者をまぜたくて、大谷さんのお話は勇気づけられますわ。

O 終わったあと、ひとりひとりと話していくんです。

U その積み重ねが、いまのDANCE BOXなのですね。

■ ころの声に澄ます

I 声の身体性のおはなしがありませんでしたが、菅さんはどうとらえていますか？ 菅 わかったことは、「聞く」っていうのが、とてもエネルギーが要るものなんだなあということです。

U 「聞く」ことは大事ですよ。話すことは聞くことだと、わたし思っています。さて、井野さんとわたしは、昨年秋におあいして、現在も中途失明の方にワークショップを行っています。視覚障害の方にたいして、詩人が何ができるのかと考えあぐね、お話をだして、お話をしてもらおうことにしました。見えてた頃の思い出を語ってもらおう。それだけのことなんですけど、ある瞬間の記憶が共有できたんですね。これは、詩やなって思いました。

詩人がテキストを離れて、詩のありようと模索するのは大事なことだと思います。もちろん詩人だけに大事なのではなく、目の見える人に参加してもらいたいと考えています。

井野(以下IN) 中途失明についてすこし説明を。突然目が見えなくなると、生きる気力がなくなるそうです。家族関係ははじめ人間関係がうまくつくれなくなり、友達もいなくなり、ひきこもりになりがちです。わたしは、人が変わるというのは、人間関係が変わると考えます。このワークショップがはじまって、参加者の「生きたい」という姿勢を感じたのが驚きでした。假奈代さんたち外部ボランティアと関わることで何か変わるのではと予感しています。わたしは、彼らがいろんな人とのあいなかで、気づく環境づくりをしたいと考えています。

■ 声は身体性

O 声は身体性の線上にあります。身体の全力を尽くさないと声のでてこないんですね。アウトリーチとして、目の見えない方に、声を通して身体性を感じ取ることができるといのは、試みとして面白いなと思っています。

IN いま、施設で目立つのは、本人も、家族のまわりの環境も閉ざされてきていることです。閉ざされたところをワークショップなどでひろげていきたいのです。

U 詩のワークショップをしていますと、そういう問題を抱かえた人の参加が多いです。なんとか人と関係をもとうとしてやってくるんです。わたしがワークショップの時にまず、言うのは、自分の立ち位置をしめす声を出しましょう、ということなんです。自分のことばを持つことは勇気をもつことだから。もちろん、一度聞いただけで会得できることではないので、なんども繰り返す必要があります。

O 継続をしないとね。

■ ワークショップはからだどころを開くことから

O ワークショップの時間で、自分も受講生の身体も渾沌としている。そのなかで、ちょっとした宝物をみつけたいと思いますね。ワークショップする者は旅人でいい。施設のスタッフは毎日の暮らしをともにする人だから、その人たちのできないことをしたらいいと思うんですね。毎日のコツコツとは違う大変さを僕たちは負うべきだと考えます。人間の生き死の次の問題でもある、セックスの問題がそうです。

IN 大谷さんって責任感があってロマンチストですね。

U そこでの責任の果たし方を担うことが大切ですよ。ワークショップを行う側としては、その時間は、からだどころを開くことから始まりますね。

■ 呼吸とところと身体

O 現在の人は身体を隠したい人が増えていますよね。身体は必ずあるものなのに、身体を隠していますね。それを、もうすこしひらいていくために、身体からはじめる。実は、身体は想像力やイメージをかきたてるものがあるから、身体を通して、他人とのコミュニケーションがあったり、からだをときほぐして、ころをひらいていく。

U 声にもおなじことがいえるのではないのでしょうか。かたい身体からは開いた声はできませんものね。ひらいたころからじゃないと、声は伝わりませんもの。それは呼吸、生きることに直結しているから。

O 踊るとは、呼吸をつなげることなんです。踊りの動きに関する要素は少なく、立つ、寝る、座る、歩く、走る、まわる、飛ぶなどです。カタチや動きをつなげていくことなんですけど、呼吸ができていないと、踊りにならない。口からだけでなく身体全体をつかって呼吸していくんです。

IN 今日の話を聞いて、おふたりともアクションをもってるな、と感じました。わたしも自分の身体で生きていかなきゃ、と思うのです。それは朗読でも掃除でも、何でもいいんです。

U そうですね。誰も身体を変えることはできないし、自分の身体をもって生きていくわけです。その人の持ち味で、大谷さんは踊る、というところで、限界を乗り越えてきて、これからは乗り越えてゆくんですね。わたしは、詩人として生きていきたいと思っています。

日本最大級の総合詩サイト

poenique
http://poenique.jp/

詩の寄り添う場所。

於集電腦女流詩人
交流向上百花繚乱
詩的空間月毎更新
隨時求新同胞以愛

蘭
Web 女流詩人の蘭の会

http://www.os.rim.or.jp/~orchid/



9月27日(土)「本格的ボエキャバ」の夜
19:00open 19:30start ¥1500 1drink付 報告: 上田假奈代

大人バンドGASの演奏と、キモノガールズによる詩の朗読の一夜は、ゆったりと暗闇につつまれた。

お客さまの隣にビールやコーヒーを運ぶキモノガールズは、いっしょに詩を運ぶ。グラスをテーブルに置くと、すこし恥ずかしそうに隣に座り、詩の束をとりだすと、朗読をはじめめるのだ。

その日は中高年の女性客が多く、会場は朗らかである。キモノガールズに優しく笑いかけてくれ、なんとも和やかな雰囲気である。

ところで、告知を見た男性諸君は「ボエキャバ? いきたいなあ」と鼻をのばしていたのに、来なかったのは、どうしてなのでしょうね。

さて、そもそも「ボエキャバ」はどうして生まれたのか、この春あたりだろうか、毎日着物を着ている上田假奈代をみて、興味をしめすお嬢さんがあまりに多い。

新聞に掲載された記事をみて、電話をしてくる女性の多いこと。そこで、日常的キモノの着付程度でよければ教えるわ、と日常キモノ着付け教室をはじめた。

ココルームの厨房を改造した事務所で、男性スタッフを追い出し、それぞれのペースで着付けを覚えていく。

せっかくココルームでキモノに着替えたのだから、終わった後に、みんなで御飯を食べて、ついでに舞台上で詩の朗読をしたりして、着付けを習いに来たお嬢さんたちは、詩の朗読なんて聞いたこともなかったらうに、それでも楽しそうにココルームで遊んでいた。

どこからともなく、キモノガールズたちのあいだから、キモノで何かしたい!と声があがり、誰がいったのか「ボエキャバ」なることが生まれ、「実験的ボエキャバやります」とメールを一斉送信すると、GASさんから「ボエキャバでGASが演奏したい」と連絡があり、あれよあれよという間に、本格的に当日、着付け教室がはじまって、5ヶ月でこの騒ぎ。

キモノって、すごいなあ。キモノガールズがすごいのかなあ。

ココルームをはじめるときに、希望的に考えていたことがあった。詩を朗読したことのない人が、詩をたのしく朗読したり、それをこころ豊かに聞いてもらえる時間を作りたい、と。

キモノというひとつのきっかけで、華やかに実現したのである。

From: wahira
Date: Fri, 27 sep 2003 23:05:27 +0900
To: 上田假奈代 <info@kanayo-net.com>
Subject: キモノガールズ帰宅

本日はお疲れ様でした。
行く度に思うのですけれど、ココルームは秘密基地もしくは宝宝箱。毎回、どきどきがあります。

ボエキャバでの詩の朗読は.....聴かされたお客様には我慢大会だったかもしれませんが、わたしは楽しかった！全然気持ちがいっしょでなくて難しいけれど、楽しかった。素敵なGASさんのライブも聴かせていただいた上に、お駄賃までいただいてしまっぺ。

.....ありがとうございました。
また、是非企画してください。
それでは、おやすみなさい。

和平 華 (和歌山)

From: nura
Date: sat, 28 sep 2003 10:11:20 +0900
To: 上田假奈代 <info@kanayo-net.com>
Subject: キモノと詩と声

昨日はお疲れ様でした。
お着物を着ることといい、人に詩を読んで聞かせて差し上げることといい、初めての貴重な体験をさせて頂き、ありがとうございました。

はじめは記載されている詩にも目を通していない状態でしたので、お客さまも私もへえ〜、って感じの状態でしたが、同じ詩をなんども読んでいくうちに、詩のこの部分をお伝えしたいわ、とか、思うようになり、次第に身振り手振りがつき、視線を泳がせ、なんだか楽しくなってきました。

お客さまに感想を伺ってみると、はじめは演奏に負けてる、とか、ふだん詩を読んでもらうことなんてないから、なんだか恥ずかしいけどいいもんやね、とか。

人に詩を読んでもらうって嬉しいことなんやね、とか、さまざま。

リクエストとしては、「僕にあった詩を読んで」とか、「美味しそうなのを」とか、「色っぽいのがいいなあ」とか、「今の曲にコラボレートするのよ」それに応えるのもまた面白かったです。

一番人気があったのは、やはり假奈代さんの詩でしたよ。

かつて子供の頃に、母に読んでもらった絵本の事などを思い出しながら、楽しんでいました。

お客さんに頂いたビールの旨かったこと! あんな旨いビールを飲んだのは初めてです。

あの状況で、朗読による疲労感を伴った喉に流れ込むびいる.....最高でした! ありがとうございました。

ヌーラ (京都)



のぞちゃんのぼえ犬レビューは、なぜか「いもほり」

10月2日。
吉野の実家へ帰った。
目的は、ぼこぼこ(コンガ)や大量の本をcocoroomに運ぶためだったが、実はもうひとつ。
前日に母・みさちゃんから「芋掘りできるで」とメールがあり、楽しみにして出かけたのだった。

吉野には、屋頃に到着。
野菜たっぷりのうまい昼ごはんを食べ、小1時間ほど昼寝をした後、いざ畑へGO!

うちの畑の野菜は販売こそしていないものの、家庭菜園の枠をはるかに超えている。父は小型の耕運機で耕しているのだ。芋掘りといっても子供のお遊びのようなものではなく、かなりの重労働。

まずは四方八方に伸びまくった蔓を鎌でバツバツと刈る。そして茎のまわりの土を大きなスコップで全身の力を込めて掘る。

あまり近くを掘ると芋を切断しちゃうので、まわりのちょっと離れたところから掘る。それからやっと、大小さまざまな形をしたサツマイモを土の中からずぼと引き抜く。

「うわあー」という声が出る。楽しい、うれしい。芋掘り。

やっぱり失敗して切断しちゃったり、モグラのかじった跡があったりするもの、またよろし。まだまだ作業は続く。ひたすら蔓を刈り、土を掘り、芋を引っっこ抜く。

刈った蔓を1箇所を集め、掘った芋を日に当てて乾かし、集めて家に持って帰る。

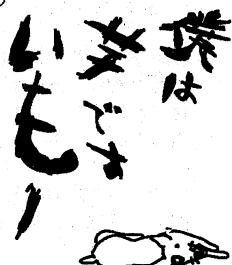
太陽の下、泥だらけで汗をかいた秋の午後。

ひと息ついた後は、ぼこぼこや本を車に運び込み、もうくたくた。ハラへったー。

その日の晩ごはん。
サツマイモと、とれたて野菜の天ぷら。
こいも(里芋)の衣かつぎ。好物の秋刀魚。
うっまー!

日帰りのつもりが、うまい料理についつい酒がすすみ、お泊まりすることに。
吉野の夜はもう毛布が必要なくらい寒かった。
翌朝、ぼこぼこと懐かしい本と秋の大収穫物とともにcocoroomに戻った。

編集部: のぞちゃん手掘り(?)のサツマイモが、蔓付き土付きで、cocoroomのプラケットライトにぶら下がっています。300円(10月15日現在)



ノンジャンルを謳った本イベントのスタートにあたり、cocoroom内でも随分議論が交わされた。新世界アーツパークの中で、「こえとことばとこころの資料室」としての役割を持つcocoroomが提供するコンテンツとして、ブックングものをやることは、是か非か。

ブックングシステムを持ち込むことは、いわゆるライブハウスのシステムを採用することである。詩のシーンと比べると、質、量ともにはるかに層の厚い音楽シーンですら、ブックングシステムの弊害が、そこかしこに見られ、昨今のライブハウス/クラブの乱立で、客はなれが起きている事実を我々はどうか考えるか。もちろん、新しいシーンの熱気ある発信源として、きちんと機能しているハコは存在している。(でも関西でいくつあるかしら?あなたも教えてみてくださいな)チケットノルマを出演者に課す、ということが、表現の場を創っていく上で、どのように作用していくかは、ハコを運営してゆくための経済原則と微妙なバランスを保っており、いわゆる「良いハコ」といわれるライブハウスは、それらのバランスが相乗的に効果をあげ、常に新しい観客をつかみ、プラスの循環が起こる。それが理想。それは、強い意志と細心のバランス感覚を必要とする。

退屈さはどこに潜んでいるのか?
運営する側と出演者と観客のそれぞれが硬直した思考に陥った時、何も起こらない退屈な夜が始まるのだ。

なんでも屋というアーティスト(?)である プディング齋によるP.P.P.C.B.N.覚え書き

■8/30「勝手にしやがれ」~ブレP.P.P.C.B.N.~

★**EDDIE WALKER** (ちょり+谷・リーディングとsax, guitar)
寝そべて吹くダラダラサクセスに、ちゃぶ台でお茶を飲みながらのリーディング。お茶の間のみなさんはただ、あせんと見守る。

★**足立大輔** (物語うた)
足立さんのギターと、語りかけるような唄を、奥さんが静かに、そして正確にサポート。お客さんもほっこりしていました。

★**ジ・インタビュース**
(近藤和見+小崎泰嗣+上田假奈代・身勝手な3人組)
何がしたいのか意味不明な3人組。メンバーの近藤和見は似顔絵での参加。お客さんに質問だけを投げかけ、そして暗転。

★**森象** (弾き語り)と詩の朗読・from東京)
東京からの刺客。ギターを叩いたり、引っ掻いたりしていくつもの音を重ね合わせる。独特の世界観に拍手。最後に上田假奈代と谷くんのサクセスを交えて大工口詩「天体」を大セッション。

■9/2

★**VISION** (アジアノック)
クラスメイトを一同に集めて、同窓会状態のにぎやかライブ。「みなさん、僕達解散します。」発言に、なぜか場内大爆笑。

★**橋本菊花** (ポエトリーリーディング)
「こんな状態じゃ表現できません。」と突然、舞台を降りる。お客さんを不安と心配の渦に巻き込むショー。うーん。新しい。が、それが演出ならば。

★**ジャンポール・マキ** (ベース弾き語り)
「10分以上やると死にます。」そう言って始まった演奏は全力疾走のドカドカっのオンパレード。途中休憩するも息切れ汗まみれでブラックアウト。

★**丘田イージマン** (うたと朗読)
うたと朗読が渾然一体となったステージ。どこからがうたでどこまでが朗読なのか。最後は誕生日ケーキの乱入で突然パーティ状態に。

■9/16

★**LONESOME HOPE** (弾き語り)
静かに静かに、こわれそうな言葉を両手で受けとめるかのような弾き語り。登場前に「お腹が痛いよ」と半泣きになっていたとは思えない。

★**演元伸彦** (ポエトリーリーディング)
「汗かきなもので…」マイ扇風機を持ち込んでの詩のリーディング。飄々とした朗読スタイルのため、睡魔に襲われる観客続出。

★**桂** (ボッサとリーディング)
落ち着いたボッサノバと雨あがりのような詩の朗読。なぜか濡れたアスファルトにできた水たまりに映る電信柱をイメージ。

★**仲座奇譚** (金亀伊織 ミキ・リン・テイラー タラ他 / 舞踏)
ディジュリドゥと馬頭琴、それに三味線と和太鼓の爆音の中、静かに舞う白塗りの2人組。今までの静けさを打ち破る素晴らしい舞台。拍手。

■10/7

★**mino** (minoの弾き語り)
バンドでの出演ではなくピアノ弾き語りでの挑戦。とてもパーソナルな事がしたいと弟さんの曲を披露。普段出来ないことをするのP.P.P.C.B.N.の醍醐味

★**サークルテリック** (サイケデリック)
セッティングに時間がかかるため、本番の時間をセッティングにかけながら登場。映像とのシンクロを目標に、メンバー、お客に尻をむけての演奏。時間切れのため、メンバー紹介もなし。??でも、これがいいんです。本当。

★**クレイジーダイヤモンド** (ロック)
ボーカルが諸事情で出演できなくなり、急遽cocoroomのスタッフをボーカルに仕立て上げてのクレイジー。汗まみれ、顔面真っ赤に熱唱するスタッフのクレイジーさに演奏者も思わず、「うーんダイヤモンド」

★**あぶらなぶり** (フリージャズ)
激しくフリーなジャズの3人組。途中、詩の朗読も入る。最後には、打ち合わせ無しで上田假奈代とコラボレーション。声帯つぶしの本領発揮。

正直なところ、今だにP.P.P.C.B.Nは出演者探しに四苦八苦ししている状態。

穴埋め役割にcocoroomスタッフがステージに上がったり、本イベントの「詩のリーディングをひとりでも多くの人に観てもらいたい」も肝心の詩人の層が薄く、上田假奈代が登場しているような有り様。詩人の観客が少ないのも、悪循環と言わざるを得ない。ノンジャンルとはいえ、やはり音楽系の出演者が多く、バンドもののひきあいが多い。けれど例えば歌詞を大切にしているバンドもあるだろう。歌詞の朗読に挑戦してもらおうなど、出演者とよく話し合って、P.P.P.C.B.N.の特徴をだしていきたい。なんとかギリギリだけど、けて、あきらめない。

■P-P-P-P COCOROOM BOOKING NIGHT ●これからの予定

なんでも有り、じゃなくて、
何がなんでも、ひとりでも、
やっていきたい人が、歩いていくために。

出演する勇気のある人は連絡してください。
問い合わせは、cocoroom事務局PPPPCBN係まで

11/4,18 募集中
12/2,16 募集中
◎2004
1/20,29 募集中
2/17,29 募集中
*すべて火曜
19:00~ ¥1,500 +1drink

大阪市浪速区恵美須東3-4-36 フェスティバルゲート4F
tel.fax.06-6636-1662 tel.06-6636-1612

PPPPCBN専用mail:cocoroom@poppy.ocn.ne.jp
地下鉄御堂筋線・堺筋線「動物園前駅」5番出口から直結連絡
JR環状線 関西線「新今宮駅」東出口すぐ
南海電鉄本線・高野線「新今宮駅」徒歩5分

<http://www.kanayo-net.com/cocoroom/>

第2部 ●かのこきのこ「空をおよぐように」

1月のある水曜日、春からルーティンで始まる「声とことばのワークショップ」の打合せのため、ライトハウスを訪れた私は、その足で体育室に向かった。井野さんが利用者向けに「音と声の時間」と題したワークをやっているのを見ていたからだ。井野さんはニコニコ笑いながら、私を輪の中に招き入れ、みんなに紹介した。すぐに私はギターを持たされて、「桃太郎さん」を民族音楽風に演奏していた。参加者の年齢層は幅広く、(当然のことながら)視覚障害の程度も物事に対する反応も様々。途中、ことばを使ったちょっとした寸劇のようなことも挟んで、大団円を迎える頃には、なんだか暖かい気持ちになった。後片づけの時、「いじまさんは、ギターを何歳から弾いているのですか?」と聞いてきたのが、かのこさん。桃太郎が海を渡るとき、レインスティックで波の音を奏しように奏でいた彼の姿を思い出す。

彼に次に会ったのは、まだ寒い2月の末、兵庫美術館で行われた視覚障害を持つ造形画家、光島貴之さんの展覧会ツアーの時。プログラム終了後、再会した私たちは、ツアーの感想を少しの時間だが、語り合った。かのこさんは一所懸命に話してくれる。そう、彼は絵が大好きなのだ。

「声とことばのワークショップ」は土曜日に行われることになったので、週末になるとライトハウスから一時帰宅するかのこさんに会うことはなかった。そして半年が過ぎたころ、cocoroomのテーブルにかのこさんが座っていた。

ライトハウス職員森田有子さんとかのこさんのお母さんともに、上田假奈代と何やら真剣にしゃべっている。「よう!久しぶりやね」遅れて席についた私は、クリアファイルに閉じられた大量の絵手紙を目にした。どこかおかしみのある木訥としたタッチの絵。彼の素直なことばが添えられてある絵手紙の数々は、いいものあれば、もうひとつのものもある。そして、机の上には恐竜のような造形物。これもかのこさんが作ったのだという。なんだか彼に似ている。ひきこもり症状だったから、外に出たのも2週間ぶりらしい。勇気をふるって、かのこさんはcocoroomに来たのだ。

(つづく)

today's 6/365

「突き当たるまでは歩こう、なんです」

採取場所: フェスティバルゲート4Fcocoroom

採取日時: 2003年9月26日(金) 18:25

苦しい時に自分に言い聞かせるのを彼は話してくれた。

わたしの返事「それ、まだ突き当たったうちに入らんよ」

解釈というのは、複雑ですね。

『夏の思い出』

服部まみち

この夏、ココルームでは「大人と大人じゃない人の夏休み絵日記展」(8月25日から9月13日)がありました。ココルームを訪れた人に、絵日記を描いてもらい、展示するというものです。ふらり入ったココルームでいきなり「絵日記を描いてください」「ええっ?」最初は驚くのですが、クレヨンを持って描き出すと「懐かしい」「楽しい」「もう一枚描きたい」と嬉しそうです。そして20日間のうちに、187枚もの「夏休み」が集まりました。ココルームの壁に「夏の思い出」がいっぱいあります。最終日には、何か形になることをしようという事になり、私は生まれて初めて、企画するものをする事になりました。

たくさんの人に描いてもらったのだから、みんなで合評会をするのはどうだろうか。スタッフが先生に扮するのは?学校風だから、まかないは給食みたいにしたいなあ。チャイムも鳴らそう。いろいろしてみたい事は出てきます。けれど、これを実際に、具体的に形に起こしていくにはどうすればいい?ひとつずつ、本当にひとつずつ仕事の進め方を教えてもらいました。企画書1枚書くにもいちにちがかり。こんな調子で間にあうのかしらん?ナースにもなりましたが、周りのスタッフに支えられ(私の知らない所でフォローもたくさんあり)何とか当日を迎えられました。

当日はこじんまりとした、だけど密度の濃いイベントとなりました。頭の中で組み立てていたものが目の前で立ち上がり、ある部分は裏切られ、ある部分は思いもしない方向に膨らみました。まさにライブ。その光景は驚きでした。関わってくれたすべての人たちの力で出来ていると感じました。そして、形に残らないこの出来事の準備も表現の一つだと知りました。ココルームの社訓「0から1を成す」このことが離れながらも、イメージできたように思います。

ずいぶん涼しくなりましたが、ココルームライブラリーには、187人の夏が保存されています。いつでも『夏の思い出』を甞らせに来てください。カフェスタッフ大絶賛のラオスコヒーブで、ちいさな秋をみつかるといいかもしれませんよ。

国語のできる子どもを育てる

工藤順一 講談社現代新書 ¥660

コドモじゃないけど、コトバづかいが苦手なあなたに:★★★★

「一番大切なことは、ことばによって思考し、表現することで、私たちは一つの世界を創り出しているということです。それは、新しい明日の世界の創造、すなわち子どもたちが希望を持って生きていける現実世界の建設に結びついていくものでもあります」著者は、はじめに書き記している。

幼いころ、望月のような時間は、読書にもあったし、ノートにむかってことばを紡ぐ、その白をことばで耕す自由さがあった。頁を繰る瞬間は、海に漕ぎ出す一舟のオールを漕いだ不安とわくわくする鼓動を思わせた。未知の物語へ進んでいくことは、日常の、たとえば地下鉄の電車の扉となら変わらないと、気づいたのは最近のことだ。扉は「借り物でない自分のことば」である。

ことばは、人生だから。

国語というカテゴリーにはめられた国語は、たしかに面白くないだろうと思う。でも、せっかくだから、子どもたちにことばを扱う国語に親しんでもらいたいと思うのだな。

ライブラリ「ことばと声の資料室」お茶と一緒にゆっくりご覧ください 寄贈も大歓迎です

「資本主義の次ぎはなんなん?」レポート

●わたしたち、種子を植えるのか、それとも、ぬるま湯をかけるのか。 上田假奈代

2回にわたる「ぼえ茶会 資本主義の次は何なん?」の来場者は合計14名(招待2名含む)。これまでの「ぼえ茶会」シリーズのなかでも、最小人数となった。その話をすると、「プロミス」という映画の催しを主宰する「さん」から「最近、硬いテーマだと集客悪いんですよ。とくに大阪」と教えてもらった。誰に頼まれたわけでもないのだから、集客が悪くても、そういうもんか、と思うけれど、だ。興味ないのかな。この試みを「面白そう」と言ってくれる人ほど、仕事に忙しい人たちの確かだ。これを「資本主義の弊害やね」と呟いたスタッフがいた。

8月15日、1回目「好きなことで飯を喰う会」(<http://sukimeshi.net>)を主宰する服部真美子さんに登場いただいた。巨大なスゴロクをわたしは2晩で描き上げ、自分で自分の仕事をつくりだす彼女と、参加者のみなさんといっしょに大きなサイコロを振った。巨大スゴロクの盤上でフリートーク。「自分で自分の価値をギャラで決めない」と、フリーカメラマンが語った。不況のまっただなかを乗りこえるフリーの人の、価値基準を他人に委ねまいとする決意が深く、印象に残っている。

8月21日、2回目は奈良の浮遊代理店を運営する浮遊人・奥田英明さん(<http://www.huyuu.com/>)本人から「対談したい」と申し出があり、打ち合せのメモは何枚にも及び、話は尽きなかった。当日は、参加者にひとりづつ「ところで、自分にとって資本って何?」と問いかける。会場では誰も自分の資本を「お金」だと言わないのだが、自分の性格に照らし合わせた返答が多く、自己に寄り過ぎの感もいめなかった。「自分の資本は?」と問いかけられた時、それが明日に結びつくもの、投資する価値があるかどうか、これまで踏み込めなかったのは残念である。「未来にある可能性、不可能性もふくめて、それをを行うのち」と答えたのは、隣のNPO「remo」の代表・Kさん。いのちが資本だと、この返答が、どんな時代であっても今を生きる人間の根源的な道のありようだとわたしは思う。

資本主義の次について、投げかけたわたしであるが、この多重で複雑な社会の前で、自分がどっちの方向へ歩いていけばいいのか、わからない。迷子の気分だ。人類が誕生してから現在に至る歴史の中で、人間はずっと争いをつづけているし、システムに流されてきたし、同じ星に暮らすというのに、わかちあえているとは思えない。でも、迷子だからといって、目的地がないのか、というところではない。ひとりひとりが、自身の人生を引き受け、それぞれの立場でいのちを尊び、いのちの果たす役割をまっとうする時、この星は進化するのではないか。そう考えるので、わたしは詩人という立場で、それを呼びかけつづける。けて、あきらめない。

●ゼロの地点からわきあがる言葉

奥田英明

資本主義がどうなるとかこうしたいとかいった大きな話は僕にはよくわからない。でも、いわゆる資本の内容が、あつという間に変わってきているなあという実感はある。バブルの頃は、金持ってるや利子だけで食っていけるのかと本気で思ったものだけど、今じゃ金持ってるだけだと、誰かさんのカモになるだけですよね。

「なんか自分で仕事を始めてみたいわあ」という若い人が僕の回りに結構いて、元氣よくていいなあと思う。でも仕事を始めるための第一歩をどう踏み出すかと聞いてみるとたん、まずバイトで金を貯めるとか、専門学校で勉強することかという答が返ってきて、おいおい本気で考えてるの?と、ちょっとがっかりしてしまう。始まりがそれじゃあ、誰かのカモになるための人生の扉が開いてしまうぜ。ゴールドラッシュの時も、金掘りに群がって行って成功したやつはいなくて、ジーンズ売ったり、スコップ貸したりという仕事を、ない知恵しぼって考え出したやつが成功したっていうじゃないか。

生き抜くために必要な力っていったい何なんだろう。金でもなく、今持ってるコネでも、すぐ古びてしまう知識でもなく、下手するとなくしてしまうかもしれない古い資本を深く捨てて、いったんないないづくしになってみるのが大事なんじゃないかと思う。まずはゼロの地点から産み出されてくる自分の言葉を鍛えること。そうした中から自然にわきあがってくる声が、新しい何かを切り開いていく、確かな知恵を語り出してくれるはずだと僕は信じている。

■10/17 (金)
黎明 (しょうみょう) ワークショップ
 出演: HIROS 清水秀浩
 20:00 ¥1500
 info.congabeat@yahoo.co.jp
 アートマネジメント・グループ、天竺企画

■10/18 (土)
ぼえ写生大会へ天王寺動物園
 ~白くまくんやキリンさんを描こう! 詩も
 案内人: 服部まみち 丘田イージマン
 12:00 cocoroom集合
 ¥1,000くらい (お弁当つき)

■10/24 (金)
ぼえ茶会vol.9 「こてんこてんこてん」
 出演: 上田假奈代、小崎泰嗣、上田のぞ美
 20:00 ¥1500 (1drink)

■10/28 11/11・25 すべて火曜日
ワークショップ・声
 講師: かどたけし
 19:30 ¥1500
 info.09082152925 (officeHAKUA)

■11/3 (月) 祝
松浦有希 ☆ 倉田雅世<歌と朗読のLive>
 15:00open 16:00start ¥3,500(1drink)

■11/14 (金)
ぼえ茶会vol.10 「まっくらナイト」
 出演: 上田假奈代、丘田イージマン
 20:00 ¥1500 (1drink)

■11/15 (土)
新世界のブルース~小林真里子入門編
 19:30open 20:00start ¥2000+1drink
 Info. ukulele@qd6.so-net.ne.jp (ウクレレ前田)

■11/22 (土)
ぶんちゃかぶん
 出演: 丘田イージマン、中村広子、服部まみち、三★電気
 18:30open 19:00start ¥2000(1drink)

■11/24 (月) 祝
雲の朗読会「アニータ」
 出演: イズミヤリョウヘイ、徳山晶子ほか
 18:00 前¥2500(1drink) 当¥2800(1drink)
 Info. 09082197980 (木之内)

■11/2日
「酒鬼薔薇聖斗への手紙」
 16:00open 16:30start ¥2000 (書籍付)
 あの事件は私たちにとって、何だったのか
 宝島社・刊『酒鬼薔薇聖斗への手紙 生きていく人として』
 出版記念イベント
 トーク: 大谷昭宏 今一生 樋口ヒロユキ

■12/7日
狛犬な夜 第一夜
 17:30open 18:00start ¥1500+1drink
 出演: ジャンポールマキ 他

■12/13土
新世界ブルース講座
 18:30open 19:00start ¥1500+1drink
 講師: 塩次伸二 zeiroku FACTORY with COCOROOM

■12/23火
キモノガールズで大チャイナ祭 叛逆のポエトリーアイドル 桑原滝弥 (from名古屋) 登場
 18:00start ¥1500 +1drink

■12/26金
スピリッツリジョイル
 20:00start ¥1500 +1drink
 出演: あぶらなぶり、INDEN (土儀ORIZIN)、hime (鳴海姫子)

COCOROOM SCHEDULE NOVEMBER DECEMBER

Performance Tour 「isotope」 at cocoroom

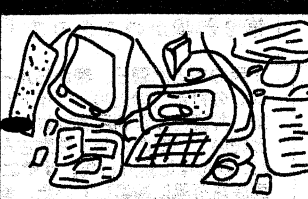
12/14日
 18:00open 18:30start 前¥2000 当¥3000 (1drink付)
 ロラ・タル・ヴォガ
 cocoroomのカフェ主任・小崎泰嗣が所属する劇団
 上田假奈代オープニングアウトを務めます
<http://www.ne.jp/asahi/tv/net/>

P-P-P-P- COCOROOM BOOKING NIGHT

10/21 11/4,18 12/2,16 すべて火曜日
 19:00 ¥1500 (1drink)
 出演者募集中: ポエトリーリーディング・ダンス
 パフォーマンス・芝居・弾き語り・落語etc.
 cocoroom@poppy.ocn.ne.jp (担当: 坂本)

●12/22 (月) PPPPCBN大忘年会決定
 叛逆のポエトリーアイドル・桑原滝弥 (from名古屋) 登場

もーれちゅ! マウス絵道場



↑
 職場の机、汚い... のぞ

くちやぐちやですね。今日の仕事は片付けてからですね。
 「返事とお礼はすべてにおいて優先する」と「仕事ができる人のコツ」に書いてありましたよ。

~詩のオーケストラサイト共同企画~
http://www.kanayo-net.com/si_oke/
 へなへなマウス絵を描いて.jpgで送って
 →まうす絵師範 ezman@nifty.co



■詩の学校
 11/5・19 12/3・17 すべて水曜日 19:30~¥1000
 應典院 大阪市天王寺区下町1-1-27 tel.06-6771-7641

■詩の放課後
 11/6・20 12/4・18 すべて木曜日 19:00~¥1000
 京都芸術センター <http://www.kac.or.jp>
 京都市中京区室町通錦薬師下る山伏山町546-2
 info.075-213-1000(京都芸術センター)

■親と子@詩のワークショップ「声とことばで歩く」
 11/1・15 すべて土曜日 10:00~ ¥4500(全4回)
 クレオ大阪東 536-0014 大阪市城東区鳴野西2-1-21
 info.06-6965-1200 (クレオ大阪東)

■声とことばのワークショップ
 10/25・11/8・22 すべて土曜日 13:30~ free
 講師: 上田假奈代、飯島秀司
 視覚障害者リハビリセンターライトハウス 大阪市鶴見区今津中2-4-37

■あの人が握るSOUL飯
 10/18土 21:00~23:00 ¥1000
 椿登、ヤノベケンジ、上田假奈代ほか
 インターメディアウム研究所・IMI大学院スクール

■日ノ丸コーラは必要か?
 10/19日 11:00-13:00 free(要予約)
 ゲスト: 雨宮処凛(作家)、山川冬樹(アーティスト、倍音歌手)、
 上田假奈代(詩人)
 インターメディアウム研究所・IMI大学院スクール <http://www.iminet.ac.jp/>
 吹田市千里万博公園1-1 日本万国博覧会記念協会1F
 info.tel.06-6816-4563 info@iminet.ac.jp


■江坂音楽フェスティバル
 アートイベント『BACK TO HOME』10/26 10:00~20:00 FREE
 参加アーティスト
 詩人: 上田假奈代、水墨画家: 国広節夫、新聞女: 西沢みゆき
 紙コップアーティスト: L O C O、あぶらなぶり、ほか
 江坂東急ハンス前 エスコタウン・クロード通り
 info.06-6562-7510(ボムグラフィックス)

編集後記
 道を歩いていると、運動会の歓声が遠くから聞こえてくる。ちいさな秋の砂ほこりに一生懸命の声。思わず、いっしんに空をみあげてしまう。雲と雲と空と。声が広がる。汗する一日、ここで走る。(U)

cocoroom寄付に、幸運がついてきますようにcocoroom運営のための寄付をつっています。
 ご寄付いただいた方には、お名前を「ぼえ犬通信」に掲載させていただきます。
 5,000円/1口 何口でも結構です。


振込先
 ●三井住友銀行 船場支店 普通 2140440
 cocoroom代表 ウエダカナヲ
 ●郵便振替 記号01090-5-48059

奥田英明さま
 笹井智子さま
 服部聖一さま
 佐相憲一さま
 匿名希望さまより
 ご寄付いただきました。
 ありがとうございます。

COCOROOM 

●スタッフ求む●
 cocoroomでは、意志のあるスタッフを募集中。
 生きる技術を磨きたい方は、扉をたたいてください。
 内職的ボランティアも募集中。
 なぜか、折ったり、貼ったり、切ったりの多い仕事場です。
 退屈に殺されるよりもマジ、と思ったら来てください。

名前: ポエト
 居住地: ココローム
 年齢: 数が数えられない
 趣味: うたうたうこと
 職業: 失業中



cocoroomをめいっばいご活用ください

●パーティ会場で、笑いと異彩を放つ面白お料理をお届けすることもできます。
 大工仕事、看板作りもお手のもの。
 担当: なんでもアーティスト・プディング齋

●cocoroomを使って、催しを行いたい方。いろいろ協力します。
 まずは、おはなしにきてください。
 1日基本管理料: ¥20,000

大阪市浪速区恵美須東3丁目4番36号
 フェスティバルゲート4F cocoroom
 tel&fax 06-6636-1662 telo6-6636-1612
 zip556-0002
<http://www.kanayo-et.com/cocoroom/>

●ぼえ犬通信がメルマガになりました●
 上記URLからご登録ください

地下鉄御堂筋線・堺筋線「動物園前駅」5番出口直結
 大阪市営バス「地下鉄動物園前停留所」すぐ
 JR環状線・関西線「新今宮駅」下車 徒歩すぐ
 南海電鉄本線・高野線「新今宮駅」下車 徒歩5分
 阪堺電鉄道「南豊町駅」下車 徒歩すぐ
 駐車場(有料) 営業時間 10:00~23:00/60分600円
 ■新世界アーツパーク <http://www.sap-s.jp>



COCOROOM
 ぼえ犬通信5号編集発行: cocoroom専
 デザイン: ヒトタコウジ